



長野縣下伊那郡電丘村三番地
編輯 高島和男
印刷 龍共社印刷所
代表者 林保

論壇

◆明年の計畫は?

昭和十二年も余す二旬にして暮れんとする師走、寒風に晒され乍らこの一年を省みるに、内政に外政に経済的に有史以來其の例なき多難極まり無き一年であつた。

内にも日支事變の勃發は人心を極度に寒からしめたるも、皇軍の向ふ處敵無く北支に南支に連戦連勝、國民亦一丸となりて此の任務遂行に何物も厭はず獻身的努力を拂はれて居る事は誠に喜ばしい限りである。

之に加へて銃後々援會の活動も亦近村に比較して余想以上の成績を現はし、銃後に於ける相互の和協も國民として恥かしからざる責任を果して居る。然し乍ら日常諸物價の暴騰と共に不安定なる蠶糸價は現今亦々非常なる低落を來し嚴冬を目前にひかへて莫大なる余算違ひを生じ、益々此の農村に生活不安を感じしめざるを得なくなつた。

予算生活を年々幾度か聞かされ、家計簿、更生簿を備へつ、も此の莫大なる余算の相違に(確實なる数字は明確ならずも)各家庭共に驚異を感じ、こゝ數年來予算生活を極度に欲する向が多くなつた事は事實であるが、此の時急激に行はんとする事は至難である。

こうした時代の流れは農民各自の胸に種々に姿を變へて浸入して來てゐる。其の一つとして協同榮を旗印として居る組合製糸の發達に伴ひ、繭糸商人の決定的な食込みは此の低落期を機として、組合員に反産意識を植え込み、さになくとも工場合同問題等によりて稍統制心を欠かれてゐる場合にて、目前の少利又は好條件に動かされ離脱を良しとし又は畫策する者の現はれである。

近來の糸價不安の状態は全く組合の不利であり危機である。然し一面組合の發達なりせば舊代の如く安閑として居る事は誠に喜ばしい限りである。

非常時 十二年度を顧りみて

林保

あつた、しく本年も愈々迫つて靜かに去りて一ヶ年を反省する時、身の微力をも省みずこの要職を汚し大禍なく過しました事は會員諸兄等の理解ある御協力に村民皆様の陰に陽にの御指導御鞭撻の賜に深く感謝にたへない次第であります。又特に御多忙中にも拘らず、特に青年會の爲め多大なる御便宜をお計ひ下さいました役場、小學校の方々に對しても厚く御禮申し上げます。去る七月盧溝橋附近で端を發せし支那事變は益々擴大し、東洋永遠の平和確立の重大使命をおび、日夜暴戾悪なき支那軍閥の聖戰に北支に中支に或は南支に奮闘せる皇軍將兵を想ふ時我々は益々時局の重大性を認識し非常なる決意と最善の努力により、銃後青年

の使命を全うするの覺悟を持たねばなりません。十二年度中最も大きな問題でありました下伊那郡聯合青年團加盟問題も役員諸氏の熱心なる研究、會員諸君の最も理解ある御援助により、過去一切の問題は捨て、單位青年會間の有機的連携を圖り共に非常時青年團本來の使命に向つて、益々内容の充實と組織の強化の爲め御努力されん事願ふものであります。又九月の不用雜誌寄進に依る村出身將兵遺家族慰問金募集に際しても、秋蠶最盛多忙期にも拘らず村皆様又會員諸兄等の熱心なる努力により、豫想外の成績に終つた事も代表者として誠に喜びにたへません。教育部事業に於ても在隊

何れか危機に直面するでいらう。「衣食足りて禮節を知る」此の古語の深重なる意を解して國民の精神否農民の意志を統一して、富國を圖るべく今一度如何なる方法かに於て、過去の更生計畫を省みて再樹立し、之に銃後々援の永久的遂行の計畫を加味し研究しなくてはならないと思ふ。

回顧愚言

牧ノ内きのゑ

「來年は來年は暮れにけり」こんな調子にて最早や本年も残り少なくなるといふ落し、峽谷の連山悉く白雪に被れて吹く風肌を冷たく晩秋は僅かな後影を残して再び冬籠りへの一步、人心自ら寂寥なり。

月日は流水の如しと申しますが昨年十二月未熟なる身をも省みず、會長の重席に浴しまして以來一ヶ年の星霜もこゝに消え、今靜かにその足跡を顧みる時萬感胸に迫り唯感慨無量であります。余りにも年若無智無學の自分如何にして此の大任を果し得るか、如何にしたら皆々様の御期待に添ふ様な事が出来るか、小さき胸に日夜大なる苦悶疑惑を抱きつ、覺束ない足取りにて第一歩を踏み始めたものであります。

愚私の述べる迄もなく北支の惡運は更に全支に漲り、國際關係は日々複雑化し私共の憂慮の的、非常時の中に更に非常時は叫ばれ、國家内外多事多端の折に際し私共女子青年の使命は實に重大なるもの存じます。此の時に當り會員として非常時局の認識を更に更に深め、先ず時局に對する銃後の務として出征軍人をして後顧の憂ひなからしむべく、各種團體に携携し、精神的に又經濟的に物質的に或は努力の奉仕、一方内面的に於ても女子會員としての本分を盡すべく、青年團の活躍に待つべきものは多々なり存じます。又日進月歩の今日乍ら斯様な時局に際しては、更に公民的素養を進め社會の淨化を計るもの銃後に於ける青年の爲す

二三年来問題になつてゐた團服制度も、出征兵送迎等あらゆる會合に於て益々其の必要を痛感しながら、遂實現も出來ず、又圖書館移轉問題も遂具体化出來得ず終つて了つ

た事を深く、お詫び申上るご共に、明年こそ各種團體の努力に御援助を賜り速かに實現されん事をお願いして止まない次第であります。

國民の村民の心は側く第二電丘建設は何時の日女性の要望! 開拓者の盛衰も、コレ奮發躍進されたきもの

永き眠りの國民に今や漸く壯途の路開く村落懇談會の成績は? 年賀郵便も紙の節約から宣傳は廢止の事

節約 廢止 等々 その裏には、泣くに泣かれぬ犠牲者有る事を知らずや陣中便り 數多揃ひました村民名位の御聲援に御理解にそれだけに貴い資料

「時報」よ 何處へ行く? 保證金の安定無くして明年こそは、村の理解待望

明年は! 明年は! 明年は! 今年も暮れにきいつしか過ぎ行く青春の日サラバ サラバ昭和十二年よ

散りし一葉も地にうせて師走の風は遠慮なく懐ろまでもおびやかす

詩人の喜び 荒野雪景色 農氏には鼻水よりは知らず 鉞を捨て、炬燵でうそぶく

親價低落の波 ヒタヒタミ ダガ 元氣百倍です 戰勝の報に浸りて

軍曹窪田君 上等兵塚平君 兩君の遺骨 雪の日歸る 村民等しく しめやか

満洲へ! 満洲へ!

新春の戰勝たる武威輝き皇軍の威進日本を元日を迎ふべき

『年賀狀印刷』の御用命を(戰線へ。銃後間の儀禮交歓にまづ第一聲を年賀狀から)

販賣 (御希望通りの名入れ) 帳簿通帳の御用命 龍共社印刷所 電話 四八番

龍共社印刷所

龍共社印刷所

龍共社印刷所

龍共社印刷所

龍共社印刷所

明朗満洲竜丘村 建設に就いて

一口に満洲云へば匪賊酷寒炎熱等々の悪条件が想起され、殊に生産程度の低い先住民族との競争に於て、太刀打は到底困難であるから、我が農村子弟を送る事は如何かの危惧を抱たのも遂ひ二三年前の事である。

マドリツトの 廢虚を思ふ

拜啓時下秋令の候に相成り職員皆々様益々御健勝の御事と御推察申上げます。小生出征以來御無沙汰に過して誠に申譯もありません。○月○○日私共は命を受けて、御用船○丸に門司より乗船致して途中某地海上に於て待機致して吳松沖にも二泊致しました。

農家簿記記帳 講習會開催

今回本縣農會主催にて中部十ヶ村を区域として、本村に於て農家簿記々帳講習會を開催する事になりました。之れも各村共開催地として希望もありましたが最も中部の中心地である理由から本村に決定したのであります。

敵は最新式の 兵器を用ひて

謹啓 暫らく御無音に打過ぎましたが家内皆々様にはお變りもござぬませぬかお伺ひ申上げます。北支も毎日寒さ身に感ずる様に相成り眞白く霜の来る日も度々です降つて小生も数回の戦闘に参加致しました。

軍部供出 ホーレン草出荷

愈々本月十八日頃第一回のホーレン草を出荷致す豫定なるもこの等級規格は、特等十二匁以上根切り、一等八匁以上二匁以上根切り、一等八匁以上二匁以上根切り、一等八匁以上二匁以上根切り。

麥作の手入れ

今年には氣候其の他の關係上是非共左記事項を實施されたし。 麥の土入の實施 麥踏み其の他 年内の中には是非共實行されたし。

上、二等三等以上にて等外は三等以下なるも受入れざるにつき、以上の規格を各自家の栽培せしものを調査し、至急其の貫数を農家組合長に報告して下さい。

本村の出荷数量計書を樹立する必要があるから、尙包装には萱製の炭俵を適當に認むるを以て、農會にて買受ける故十五日から十六日までに役場へ届けて下さい。

中たい内も益々元氣加はり次の戦闘準備をいたして居ります。すてきは皆甘才前後の青年にて最新式の兵器を用ひ、例へば○○○機關銃、○○○○○機關銃、○○小銃、○○砲、○○○機關砲などに又○○○を射撃する砲を持つてゐる。

お寒い時に体の暖まる うどん時 伊勢屋

代田屋小間物店 小間物御用は總て 化粧品 化粧箱 化粧袋 化粧物各種

福與寫眞館 觀音前 御料理は總て 大勉強の 富士松へ 電話十五番

沖田商店 理想的な豆炭 經濟的な 價格低廉 電話三四番

藤屋菓子店 銃後の 御歳暮 御年玉向 御贈答用菓子は格安の

健康は……銃後の寶 肉食は……健康の因 (忘年會には是非肉を)

細井亭 電話二十四番



嗚呼 窪田軍曹戰死詳報

○部隊長より

前署 既に公電せられた候如く御息嘉一殿には去る十月廿一日西原附近の激戦に於て、名譽の戦死を遂げられし段重ねて御通知申上候

『必勝鉢巻』

誠心こめたる乙女心

旅先より役場へ

去月廿四日上川路區出身にて現任岐阜縣一ノ宮市大日本紡績工場に出稼ぎ中なる金子史、金子喜美兩嬢より村内出征軍人の必勝を祈りて、當工場産日の丸に「聖戦必勝」を染めたる鉢巻十本に乙女心の赤誠こめたる左の如き手紙を附して、村役場に送附あり

竜丘村教育史

訂正 成る

昭和九年桐林青年會調査部發行(竜丘村教育史)は其の後誤植數多あり、第三章高程度教育及専門教育に於いて、調査洩れありて誠に遺憾とされてゐるも、この程中

塚平厚留君

最後の通信

拜啓 秋冷の候に成り朝晩大分寒くなりました。代田村長殿始め役場の皆様には長御無沙汰なりましたして申す

短歌

下平謙一

留守たい便りに添えて

いつの日か故郷びこ

語りなむ

銀杏葉の散る秋なりぬる

北 澤

時又驛頭塚平、窪田兩君の

英靈を迎へて

寂しして聲なく迎ふ

み極よ

夕風寒く雪舞ひにけり

護國の花に散りしもののふ

悲しみの極みよラッパの

音低く

む言の勇士今日ぞ歸れる

西風に粉雪混り散る夕べ

白木の柩 二柱 迎ふ

大君のみここのり受け

若き兩士のみたま 安かれ

家庭欄

炭おこし法

之からは炭をおこすも年々一役ですが、忙しい時は側に付いてゐて團扇を使つたり、ブウ／＼吹いたりする暇もありません

粉炭の用途

木炭が眼の廻る程騰つてこの冬は少しの粉炭も決して粗末になりません

會席時 梅の家 電話 六番

春着晴衣の御仕度は 特に念入りに 一度御相談下さい

今村周八染色工場 電話、飯田二六三九番

年末の御用意は 年賀はがき 各種揃いました

記念贈答品には 額縁、お茶、御使用の程御願ひいたします

格安で 味のよい よく出る茶

青島茶店

洋品 学生服 佐々木屋胖物店

若木屋のお菓子 御利用下さい

若木屋菓子店 電話一四番(呼)

若木屋菓子店 電話一四番(呼)

みこせ食堂

河中の友軍機を救助して

野道部隊 中島 榮

拜啓 出征以來御無音に打過ぎ誠に申譯ござりません。

朝日は昇る頃やつこ人心地になりぬ。鐵道はやつこ通する様になりたるも私線なる爲運

見られぬ様なり。舊關一泊石家莊を出てより幾日戦争の惨たるを味ふ。

動車も月に〇回位しか石家莊に行かず、性來の悪筆交通不便に遂長らく御無沙汰に

戦夜に入り兩岸火の海に化し天を焼く。右岸は便衣たい出

事本廿六日佐世保着、初の凱旋、前途更に幾多重大使命を

八月廿日再び黄浦江をさか登り任務を果し下航し、吳松

保定一正定一石家莊一順徳一〇〇〇名今日の戦線をみて

保定一正定一石家莊一順徳一〇〇〇名今日の戦線をみて

幾度か轉戦して

大前鎮美

都下たる安陽(彰徳)を占領して直ちに東北方に引返し、

保定一正定一石家莊一順徳一〇〇〇名今日の戦線をみて

保定一正定一石家莊一順徳一〇〇〇名今日の戦線をみて

敵死体をスクリユーの廻轉に

下平武

八月拾七日出動命令下本日申出動準備完成明拾

傷二病二兵二を看護しつ

高木關

保定一正定一石家莊一順徳一〇〇〇名今日の戦線をみて







### 故窪田軍曹陣中日記

北支戦線に於て護國の華を散らした窪田軍曹君の戦死当時懐中してゐた陣中日記、戦死の前夜までを筆を取つて居た沈着振には驚くの外はない。紙面が少いので全部掲載できないのは遺憾の極みである。

十月十五日

夜明ければ静かな雨降りだ。高邑縣驛構内の線路もしつかり濡れてゐる。澤山なカラスが集つて騒いでゐる。こんなに澤山集つた所は内地では見られない。

打解けし戦友思ひは一つだ。故郷の語らい、亦過ぎし日の思出に花が咲く。

汽笛一聲 爆進する列車は次第に近くなり悠々驛に入る。

第四列車 時八時

寒さひとしきり夏服では少しこたへる。背中が水を打たれた様。知らぬ間に眠る。

十月十六日

眠が覚れば列車は停止してゐて昨夜は僅か三里ばかり走つたのみだ。

ヒエばかりの南京飯を暖めて味嗜む。列車は休み、順徳へ。午前二時二十分着

敵の焼けた糶糶家屋が盛んに燃えてゐる糶糶の山の上に立つ監視兵、飢に迫りて食を求めんとて手にて袋を下

げて集る土民 遠くに見える高い城壁、空軍の爲點々物凄く爆破されて居る。機関車も同じ運命だ。

列車退却をやつたこの事最早第一線を超越した様だ。従つて警戒も嚴重武装も整ふ鐵板に包まれた車内夕日を受

て暑い。足一つ延す事の出来な苦しきハゲ山の彼方に夕

十月十八日  
聞く處によれば敵は約一千攻撃準備を整へた頃夜は彼方に明けぬ。早くも銃聲が始めた。包圍地形をこつたまゝ、

く、前進する愉快さ、逃げゆく敵を撃ちまくり、リユウ、響く迫撃砲、今迄こんな愉快な戦争をした事はない。

十月十九日

目のさめた時列車は滋縣驛よりすつち後方に居た。列車内夕食を終ふ。約一時間に

して下車、警戒勤務に服し宿營、敗残兵がぞくぞく入つて

來るらしい。遠く河の方から

### 牛を徴發して

#### 陣中の想出

遠山部隊 吉川留平

ある日の事であります。僕らは背裏に冬外套及毛布を附て背負つて戦地へ來たのです。

晩は寒いけれど背裏の毛布を取つて寝る程の餘裕もありません。誰も毛布は邪魔

だに皆感じて來るのでした。丁度休んで居た處の支那民家に牛が居たので其の牛を徴發

してつてゆく事になつた。我〇隊の毛布三十何枚かである。目方の割合にせいで張

るので丁度牛につけて適當の荷です。其の附近に一人の支

那人が妻を子供を連れて來たのを見だして誰か引張つて來た。支那軍の殘兵ではないか

と日本刀を振上げる將校もゐた。結局一士民であつたのだ。其の支那人に牛を引かせる事

にした。支那人をニーヤと呼ぶを通過してゐます。牛の追ひ方も内地とは少し違つて

恐怖を感じて居るべき軍の中だもの。少し間違へば首が飛ぶ位何んでもない時なのだ。

少し休んだが彈丸の飛來も緩和しないので又前進を始めた。少し経た頃より猛烈にときは

十月二十日

四時半起床岳丈嶺に向ふ陣地も相當堅固らしい。聞く處によれば昨日一日迫撃砲をも

つて射撃したけれど逃げないミエとき陣地に對し迫撃砲は

何んの効力もないのだ岳丈嶺九時半着、各人は眠る事に努

む。暑い秋の陽は横顔を遠慮もなく照りつけ汗ぞつくりだ

午後十二時

いよく彈丸の飛來する頃四尺巾位の相當水の流れて居る

川を越す事になつた。自分が先に川を渡り、足がすべつて

つて深くのミ水に落ちて心持がよいのミ水をのみたいのミで

座りこんで水をべらべらのおんてゐる。狼狽して戻つて引張

つて見たが首を伸すのみだ。狼狽してゐるので床尾板で牛

のけつをなぐつて見たが更に動かさなう。水面ミ陸面

が五寸程しかないの水は丘について來る。そうこうして

ゐるうちに迫撃砲が三發程少しの間近處にサク裂けた。たまらない何して動かさない。附近を進軍中の馬がてき

弾に倒る。いたし方なく我々地に伏して銃丸の緩むのを待

つた。水は忽ちついてくるのミ部隊は進んでしまふ。少したつて

は進んでしまふ。少したつて「あ湯澤君何んかしよう」

ミ僕は云つたが、まあ今少し待つてゐませうミ青くなつて

居る部隊は前進してしまふ。僕は居る前でお隊を別れて單獨

行動になるのを恐れて急いだ最後の決意を固め彈丸の中に

ミ毛布を下す事になつたが水の中に致しかたなく繩を切

る事にした。毛布を流さん爲すに鞍繩を切つて毛布を投げ

出した。其の頃は彈丸の飛來も少しく少なかつた。

毛布は水くわつて牛一頭にはつかれない。因却してゐるミ

小行李の遅れたのが來た。頼んで幸ひ何枚か車にのせて貰

い残り無理に牛にのせて少し綿花畑を行進するミ又毛布は牛の背より落ちてしまつた

迫撃砲も時々爆音凄くサク裂する銃聲もぶんぶん來る中

だ。愈々驚いてすぐに乗せる勢もない。部隊は少し先のぶ

落の土壁邊に停止してゐるので牛を毛布の所につないで

き其儘土壁の中に行つて少し休んだのでした。

戰場にて明治の佳節を祝す

齊藤部隊 金子虎一

拜啓朝晩めつきり寒くなりました村民皆々様には御變りはありませんか御伺ひ申上

す 小生保定出發以來久しく御無沙汰致し失禮致しました。戦

況は定めし新聞紙上に詳細に御承知の事存じますが概

略申上す 去る十月二日午前五時前進命令下り保定を後に我部隊は追

げきを開始したのであります 目的地は保定の南方約百四十

キロの地點石家荘に向つたのです。曉の渡河を渡す限り果

しない高粱畑の中を追げき追げきを加へ數日間して正

定きよ陀河の激戦に参加し勝利の間にあつたのが強固に守

### 露夜の歌

前略 十一月七日付御手紙有難う。拜見しました。何處で歌ふのか一人の兵士が露月夜の彼方淋しく歌つてゐる

十一月廿二日

高島様

連勝追げきに追げきを加へ元民も優秀なる第一線部隊によ

つて何なく占領し去る十月十八日順徳城に入城致しました

順徳に帯在一週間尙も前進命令あり去る十月廿八日只今

のカンタンに向つて前進を開始し廿八日到着し現在カン

ン城外に宿營致して居ります尙も北支の征戰は前途遼遠の

事と思ひます。我部隊も何時前線に向つて出發するか判ら

ない状態です。然し乍ら今日迄國家の干城として皇國の爲

には無上の光榮を存じてゐます。之皆村民皆々様の御後援

に深く感謝いたします 今後尙一層努力し國家の爲

す。今日は尊い明治節にて部隊も隊長統率の下に式が厳

に執行されました。身の北支に在るを忘れ全將兵遙か東方

に向つて宮城を遙拜し國歌再唱し部隊長の勅語奉讀あり後

しました。留守中は格別御世話になるにも不拘御手厚き御見舞に接し此段厚く御禮申上

まず。先は村民皆々様の御健康を祈り戰況御知らせ傍々御禮まで申上す。村民皆々様による

十一月廿二日 下田少尉

残した聲が忘れろよかいくさる身はかねてから捨ててゐる身はかねてから

泣いてゐる草の虫 嗚呼今更自分のあの澤山の皆々様に送られて〇〇驛頭を立

つた時の事が思はれます。七月四日より病床にあり衰弱した

た体をもつて我れ軍人とは申せ自分乍ら何んか悲壯な覺悟

であつたらう。家族の母妻、女子供には口では勇ましく云

ふ〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

然し幸なるかな、勇躍征途に上りしより誠に神明の加護に

より今は健全な立派な体さなり元氣よく勇ましく、夏も過

ぎ秋も去り今は當支北〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

昨日の暖かさもさかか去り銃身氷る零下何度、身も肌も

つもさか許りの寒さ。此の寒氣にも劇務にも何んの渡務も

なく御國の爲天皇陛下の御爲身命を捧げ立派に御奉公ので

き得るのはほんに自分乍ら愉快に感じます。私もほんに元氣故家族の者も皆御安心



日本人要望の地

吉林省ヨ蘭縣水曲柳にて

今村清

お懐しき故郷の皆々様
其の後一向御無音に打過ぎて
居ります。お伺ひ申上るまで
もなく御出征の後、御苦勞様
の事存じます。

省みすれば三月十一日皆々
様の御熱聲なるお見送りを辱
けなくし、雪の滿洲へ出發致
し十六日現地當水曲柳へ入植
致しました。お世話様に相成
りました。寸時も忘れぬ故郷
でありすが入植初年度の忙
しさに忙殺され、心ならずも
失禮に失禮を重ね誠に相済み
ません。雪の曠野に下され、
雪の汚い満洲人鮮人言語は勿
論西も東も判らず、本年の收
穫等考へる余裕すらなかつた
のであります。

今でこそ總ては大陸と相和し
何の不自然でもありませんが
一切が目新しき存在でした。
四月幾日か、解氷期を待つて
水路工事にかゝりました。
延々一里半、平均巾八米、地
主との交渉は語も分らず滿洲
事情にも通せず遅々として進
まず、一時は本年度の收穫の
程が心配致しました。

一諸に入植した紅密峰の如き
は既に播種を終りたるに未だ
水が来ぬ云ふ次第、いよいよ
望薄となり焦りました。
滿洲の稲は内地では想像もつ
かんです。播種より百日で
實に成るのですから、時付の
一日は實に收穫に大影響を及
すので、私共本年の時付期を
半年も遅れては收穫を豫想す
るには大冒険だつたのです。
滿洲の時付は五月十日頃より
遅れても五月末迄に終らなく
てはならない事に云はれて居
ます。本年私共の時付は六月
十一日より六月廿五日で終つ

自らを慰めて居ます。
滿洲も廣い様ですが吉野福一
君も五常縣の五常に協和會事
務長として働き、關島武照君
も此の間縣で遇然逢ひました
話してゐる。私共の縣へ森林
警察隊にこの程轉動されたこ
云ふのです。

歸りに雨に逢ひ自動車が発た
ないので、滿洲より軍馬を借
り四里の道を語り合つて來ま
したが、戦争に行つた氣持で
一生懸命に働こうと申し合し
てゐます。(滿洲の自動車は
一時間雨が降つたら發たない
のです土地が全部極めて微粒
な粘土ですから滑つて走れま
せん夏でもタイヤチェーンを
つけて走つてゐます)

細かい色々は事有りますが
一つ御報告致し度き事は、本
月十五日中央部新東京吉林よ
り、縣長參事官等來り此のジ
ヨ蘭縣鐵道沿線兩側一里半宛
日本移民用地として買収する
事になり、午前中滿人、午後
鮮人を集めて申し渡しがあり
ました。結論は國策で有るこ
云ふ事です。滿洲人には「メ
ーハーズ」云ふ語(仕方が
ない)を信じてゐますから立
ち去るのですが立場を變へて
考へたらどうでせう。

同情してしまつた。同情は
同情でも國策でなければなら
ません。伸び行く日本は大し
たものです。隨つて用地の開
題は解決です。
滿洲の日本人要望は又大した
ものです。滿洲官吏は日本語
を知る者は奉給高は勿論、整
理も早いので其の日本語勢は
大したものです。
岡村、小林さんの視察旅行談
にも有つた事存じますが、
ハルビンのロシア街で「モス
トガヤ街」「キタイヌ街」の
大ビルディング構立する所を東
京銀座として、銀座を溢る、
日本人をロシア人に置き變へ

北滿の曠野に
野ざらしとなりて

少年移民生

原純生

前略 北滿の彼方で待ち焦れ
た家よりの便りを有難く拜見
致しました。故郷よりの便り
と思つて受取るべき嬉しさ
は筆舌には現せません。
此の日は訓練所の警備當番で
したので歩哨に立ち乍ら北風
に靡かせて眼頭の熱くなるの
を覺えつ、何回も讀み続けま
した。
淋しいこは誰れも同じ事な
のでせう。先頃不寝番のとき
に見たのですが寢言にまで泣
聲を立て、泣く者もありまし
た。この痛切な風景を見て自
づみ故郷のこゝ、肉親のこゝ
友達のこゝを思はつには居ら
れません。
是も警戒もし覺悟もして居た
事なのでホームシックなので
せう。然し此の北滿に來たの
も運命と思つて北滿開拓の第
一線に野晒しになつて農耕に
身を捧げる決心です。
去る廿二日日本國民高等學校
長加藤先生拓務省の人達が來
られ暫らく張りて内地の

北滿饒河行と現イラハ

江訓練所生活

原耕

新東京靈塔參拜後直行ハル
ビン滿蒙開拓訓練所入所、戰
友の唄にあるが如く赤い夕日
の滿洲に、全く夕陽の沈
む時は眞赤です。
第一班三十名体格の良い者ば
かり選抜されて、ハルビン訓
練所を後に新東京丸にて出帆し
ました。松花江の沿岸は非常
に景色が美しく、夕陽没する
時は全く美景です。みんなに
廣漢千里北滿洲の景色を見せ
てやりたい位であります。
現在の氣候は余り内地とは變
りはありません。日中は暑く
朝方は冷寒です。
船中にて日本〇〇長の元に滿
洲語の練習に余念がありませ
ん。又は滿人についても習ひ
ます。言葉が通じない時は手
まねにて用をたします。困る
事もあり面白い事もある。發
音のむづかしい事が閉口だ。
滿人はこゝも正直です。船中
にて毎日支那料理に油すくめ
の料理にて閉口する果物の罐
詰にて中和してゐます。
松花江の水は濁水できたなく
あり黒龍江の水は薄黒いです
黒龍江に入つた時は露領兵舎
が見えました堂々たる兵舎で
は、ツツ兵が居るのが見え

トウ(マン十)トモロコシ
なご貰つて喰べるのも愉快で
す。
此頃毎日日和続きで豚や馬の
群が一望千里の草原に點々た
る眺は内地では到底想像出來
ません。それに歌にある赤い
夕日の眺は實に雄大な眺で故
郷の事も自己の運命も皆總て
莊嚴の幕の中に閉されて暮れ
て向立ち盡すのです。だが其
半面には四方八方更らに山な
く木なく川なく薄青い廣漠る
野原ばかり、山國育ちの自分
達には餘りに殺風景で物寂し
い。
最後に老後のお母さんに何の
孝養も出來ないのが心残りで
す。何卒二人分の孝養を切望
致します。
では順序もなく書きましたが
北まんの曠野の果より皆様の
ご多幸を祈つて筆を擱きます
ます。船中生活八日にしてゼ
ウ河着、同町より農場へ一料
大和村の少年隊に合した。
一日休養後愈々滿洲小屋(ト
イチヤン建築)に〇軒の地點
に出掛けました。リュウツサ
ツクに必要な品をつめ銃剣を持
ち、此の地點は何時匪賊の襲
撃あるか判らぬ爲め非常な警
戒です。作業中蚊の襲ふのに
は全く閉口致します。ブク
ミヤリきれませんでした。
異郷の空に中秋の明月を見る
この日はまん洲人はごんな貧
民も休み一日を祝ふ。我々も
詩吟或は流行歌を吟む。一滴
のまん洲酒に酔ひ非常に強い
酒で呑めません。則ち一日で
した。訓練中アミバー赤痢に
十三名かゝり一度ゼウ河に歸
り軍醫の診察を受けました。
アミバー赤痢はまん洲の風土
病で恐る、事はありません
再び我々は新選組なるものを
編成し建築作業を續けました
ウスリー河にも遊びに出かけ
て愉快でした。建設作業が終
つたので寒くならぬ中にゼウ
河に別れを告げなければなら
ぬ。想ひ出深き町よさらば、
躍進途上信濃村見學の豫定な
りしも都合上見學中止となり

ました事は遺憾でした。
大和村寮生の見送りを受けて
同昌丸にて出帆、同船の〇〇
長同郷出身(下久堅村)三石黨
氏に遇ひ下伊那出身四名は招
かれて二等船室に於て御馳走
に預る。故郷の話に余念なし
思ひ出深きゼウ河行が終りハ
ルビン訓練所休養後、本隊に
合す可くイラハに向ふ。
イラハ着暫くふりにてみんな
顔面を合せて悦びかつた。
直ちにゼウ河行の座談會が開
かれました。お互ひの苦心談
に花が咲きました。イラハの
生活が始まりました。草刈り或
はトラツクに乗りて建築材料
運搬等に從事してゐます。
愈々立派な新築された驛前の
訓練所に入りました。醫務宅
も設備されましたから御安心
下さい。オンドルやベチカ等
の暖かき装置もあり室内はシ
ヤツ一枚でも居られます。
室外は零度一八二十度位の
嚴寒です。娛樂設備は長野縣
出身まん植委員局長の下さ
つた蓄音器あり、野球道具あ
り、フットボール等近い中に
ラヂオも新設される様子です
面白く朗かな生活が出來ます
馬も十五頭程來ました。
我々訓練所の所長は第一次移
民團長山崎氏が來られました
北海道帝大出身の學士です。
同じく三木原先生も東京帝大
政治科出身の人々です。九州
の出で良い先生です。先生よ
り入植當時の苦心談を聞かさ
れます。一時は絶望視し再び
光明を認めてまん洲の開拓の
爲めに生命を賭してゐます
現イラハは匪賊の心配は更に
ありません。若き人々の活躍
するにはよい土地である事を
つくろひ思ひます。ゼウ河行
ミイラハの現状お知らせまで